

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
東洋美術学校	昭和51年6月10日	中込 三郎	〒162-0067 東京都新宿区富久町2番6号 (電話) 03-3359-7421																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人中込学園	昭和50年6月10日	中込 三郎	〒162-0067 東京都新宿区富久町2番6号 (電話) 03-3359-7421																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
文化・教養	造形専門課程	クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻	—	平成20年文部科学省 告示第15号																		
学科の目的	企業や商品を宣伝する広告プロモーションから、企業のWebサイトからサービスのブランディングまで、メディアミックスで様々な表現ができるデザイナー、ディレクターの育成。																					
認定年月日	平成26年3月31日																					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																
4	3,948時間	384時間	1,996時間	40時間	0時間	1,528時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
320人	236(101)人 ( )書きは専攻実員	1(1)人 ( )書きは専攻実員	8人	150人	158人																	
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～3月31日 ■3学期:—		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 作品内容・試験結果及び出席状況・学習態度等を 総合して評価																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月15日～1月7日 ■春季:3月10日～4月10日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件	全ての科目で「可」以上の成績を取得し、かつ、卒業制作にて「合格」を認められること																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール・SNS等での定期的な連絡による情報把握。場合によっては保護者面談、家庭訪問も行う。		課外活動	■課外活動の種類 デザインによるボランティア活動や、描画・プログラミングの部活等 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) WEBデザイン会社、広告制作会社、ブランディング会社、映像制作会社、企画・制作会社、デザイン事務所(個人事務所) ■就職指導内容 就職ガイダンスを通して、自己分析から始まり、応募書類の書き方(履歴書やエントリーシートなど)、ポートフォリオ制作のアドバイス、求人情報の集め方、模擬面接、模擬試験(一般常識・SPI)等を行っています。 ■卒業生数 : 21 人 ■就職希望者数 : 21 人 ■就職者数 : 17 人 ■就職率 : 80.9 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 80.9 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 色彩検定の資格取得講座を開講しておりますが、 卒業年度生の受験者はおりませんでした。			資格・検定名	種	受験者数	合格者数												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
中途退学 の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 4.8 % 平成28年4月1日時点において、在学者104名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者99名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 保護者の経済面における問題、健康面・精神面における障害や進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的に行う担任・副担任による個人面談、TO-BI相談室利用の促進、保護者を含めた三者面談等。 ※TO-BI相談室では、週二回 臨床心理士による予約制の無料相談を行っています。																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 高等学校の成績を判定基準とした特待生入学制度有り。年間10万円～42万円 授業料等減免。 (https://www.to-bi.ac.jp/entrance/scholarship/) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																					
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://www.to-bi.ac.jp/course/cdc/">https://www.to-bi.ac.jp/course/cdc/</a>																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
  - 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
  - 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者を含みません。
  - 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

- 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
  - 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
  - 「就職」とは給料、資金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱ふ)。
  - 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ITの革新的な技術によりデザインとテクノロジーを統合するコンテンツ業界において、サービスや商品のマーケティング、イラストの制作、プロダクトの開発まで、様々なメディア、モノ、表現を効果的に活用し、提案ができるクリエイターの育成が望まれています。4年間のカリキュラムは、表現する上で必要なコミュニケーション能力、マーケティングセンス、発想力、構成・色彩・デッサン力、そしてプレゼンテーションスキルを養う多くの授業と指導が組み込まれています。そして、個別に学んだ事を知識として応用できるようにする為に、産学連携授業を位置付け、一人ひとりの実践力につなげています。株式会社モリサワとの産学連携授業では、タイポグラフィをテーマとし、具体的な書体を用いた社用ノベルティの提案を、学生から企業へプレゼンテーションし、成果を上げていきます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は、カリキュラムの設計から講師の人選まで管理する、デザイン研究室と直結しています。委員会の存在により学校長と研究室間の迅速な情報共有と意思決定が行えるようになっていきます。プロジェクトマネジメントは産学連携事務局とキャリア支援部が協力して行います。委員会でまとまった意見は、3段階の方式で実装をしていきます。先ず直ぐにできることは、委員会後1ヶ月以内に実行のための検討を進め、直ぐにはできないが検討の後、実行可能なことは次年度までに実行に向けての計画を策定します。そして、検討後3年以内に実行できないと学校長が判断した意見は、その後の会議で再度議題として委員会メンバーに打診し話し合います。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中込 三郎	学校法人 中込学園 東洋美術学校 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
中込 大介	学校法人 中込学園 東洋美術学校 副校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
岡田 好市	学校法人 中込学園 東洋美術学校 教頭	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
高木 能得	学校法人 中込学園 東洋美術学校 デザイン研究室 室長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
石川 義宗	学校法人 中込学園 東洋美術学校 デザイン研究室 主事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
並木 幸久	文理シナジー学会 理事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	②
藤崎 研一朗	株式会社メルカリ プロデューサー	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
皆瀬 十三夫	東京特殊電線株式会社 研究開発部 課長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年9月9日 10:30～12:00  
第2回 平成29年2月24日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会は、各学科が企業と予め目標と定めた成果を目指しているかを定期的に確認していきます。教育目標として生徒にとって意義があったとしても、企業側は得るべき成果を得られているか、プロジェクトに費やす時間は長過ぎないかといった具体的な内容についても学科担任職員を通じてフィードバックを行い、当該年度の最終会議で再度検討し、改善事項は翌年度カリキュラムへと反映させていきます。今年度、クリエイティブデザイン科においては、フィールドワークやマーケティングリサーチといった、情報インプット主体の授業や、産学連携課題も企業オリエンテーションから開始することにより、前提の理解から目的の設定、企画、制作、提案と、デザインにかかわる一連のスキームを経験できるカリキュラムへと変更されました。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

生活者視点から考えたデザインとは、見た目の心地よさ、機能性、そしてライフスタイルを向上させる物語を含む事が生まれ、その中でも売れる商品だけが市場で評価されていきます。その視点を個人の生徒が知識として習得するには商品と顧客をもつ企業との連携が不可欠です。また、企業にとっても多くの生活者視点を持つ学生との関わりはマーケティングノウハウの構築のみならず、新たな発想、デザイナーを取り込む仕組み・リソースとして活用できます。この2つの需要を合致させる事で双方にメリットのあるデザイン教育の連携を実現しています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

カリキュラムで重視するファウンデーション期間において、企業連携によるタイポグラフィの授業を実施することにより、デザインにおける適切な書体の選定について、初期段階での習得を目指します。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
タイポグラフィ基礎	デザインにおける適切な書体の選定方法や、書体・組版の違いにおける印象の変化を実践的に学ぶこと。授業成果として、課題のクライアントでもある「株式会社モリサワ」へ向けて、書体を用いた社用ノベルティの提案を行うこと。	株式会社モリサワ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係											
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針											
事前打ち合わせ、中間発表、最終プレゼンテーション時に、マーケティング、広告戦略、及びデザインについて直接指導を受けます。「コンテンツ東京2017 ライセンシングジャパン」にて開催する有識者セミナーへの参加を通じてイラストやデザイン、ゲームなど知的財産の活用における人材のあり方について学びます。また、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修として、産学企業の製品・サービスの市場性を研究し、日頃より生徒に対して現場レベルの指導をする為に各学科会議にて報告をします。											
(2)研修等の実績											
①専攻分野における実務に関する研修等											
・国際総合知財ホールディングス社による研修・セミナー 「内容：著作権管理、アートマネージャー育成、開催時期：2017年5月10日」											
②指導力の修得・向上のための研修等											
・学校リスクマネジメント協会が推進する研修・セミナー 「内容：クレームリスク、不祥事防止研修等、開催時期：2017年11月16日」											
(3)研修等の計画											
①専攻分野における実務に関する研修等											
・国際総合知財ホールディングス社による研修・セミナー 「内容：著作権管理・アートマネージャー育成、開催時期：2018年5月」											
②指導力の修得・向上のための研修等											
・学校リスクマネジメント協会が推進する研修・セミナー 「内容：クレームリスク、不祥事防止研修等、開催時期：2018年11月」											
・ゲーム会社のクリエイティブディレクターによるハンズオンセミナー 「内容：ゲーム業界を志望する生徒が増加する中、在校生に現場のノウハウを伝える為に企画するセミナー」 2018年4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月											
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係											
(1)学校関係者評価の基本方針											
視野の広いアーティスト・デザイナーの育成を目的とし、心・技・感性のバランスのとれた人材を育成すると同時に、アナログとデジタル双方をバランスよくとらえることが出来、情報化社会において、クリエイティブの在り方について考え、社会に求められる職業教育を行い、インターンシップとカリキュラムの関係をより効果的にするプログラム作成を重点的な目標とし、学外の意見を取り入れた計画を、単年度だけでなく、中長期にわたり計画策定する。											
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>	(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul>	(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>	(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目										
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>										
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul>										
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>										
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>										

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校の教育活動は、学内にとどまらず、社会的活動も含まれる。さらに、意見は、授業内容の改善、そして、社会的活動としては、美術学校独特の活動し、地域等に於ける、無料公開講座、聾唖学校の生徒達の指導として海外美術体験を提供し、国際交流等を図り、学校運営においては、学校体制や人事の円滑化を具体的に活かしていく予定。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 強	浦和麗明高等学校 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	高等学校 校長
杉崎 厚子	有限会社エスプランニング 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	専門分野 企業等委員
中村 真太郎	税理士法人 長坂会計事務所	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	財務等 専門家
石井 聡	ファイナンシャルプランナー	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	財務等 専門家

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://www.to-bi.ac.jp/pdf/h28\\_self\\_evaluation.pdf](https://www.to-bi.ac.jp/pdf/h28_self_evaluation.pdf)

平成29年7月27日に、平成28年度 項目別・自己評価表をWEB公開した。

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の情報提供は、多岐にわたる為に、教育部分と運営部分とに大きく2つに分け、教育部分は、入学・在学・卒業に分け、運営部分は、経営及び校務に分けて情報提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育、人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色</li> <li>・校長名</li> <li>・学校の所在地、連絡先</li> <li>・学校の沿革、歴史</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学に関する受入れ方針</li> <li>・入学者 収容定員</li> <li>・カリキュラム、時間割</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等</li> <li>・卒業後の進路</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の組織、教員の専門性</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取組状況</li> <li>・企業等との連携による具体的な取組</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況</li> <li>・社会貢献活動</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> <li>※逆浸透膜浄水器、TO-BI相談室の設置</li> </ul>

(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金 金額</li> <li>・活用できる経済的支援措置等の内容等</li> <li>・学生納付金 納入時期</li> </ul>
(8) 学校の財務	・財務諸表
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	・外国の学校等との交流状況
(11) その他	
<p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3) 情報提供方法 上記項目(1)～(10)はWEBで公開している。</p>	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			クリエイティブ概論	クリエイティブデザイン科に關係のある各専門分野の講師による講義です。グラフィックデザイン・パッケージ・イラストレーション・3DCG等についての仕事内容を学びます。	1前	24		○			○			○		
○			広告概論	広告の表現と具体的な事例を提示し、その目的と概略を知ると同時に、人権や著作権など、表現者として知っておくべき幅広い分野について学びます。	2後	30		○			○				○	
○			言語表現論	句読点の打ち方から始めて簡単な企画書の作成まで、自分の伝えたいことを読み手に分かりやすく伝えるための基本的な技術を学びます。また、就職活動対策のために自己PR文・志望動機・メール文章の書き方についても指導します。	2後	30		○			○					○
○			Webマーケティング	Webマーケティングの仕組みと考え方や、Webマーケティングを意識したWebサイト作りのポイントを学びます。広告を使ったマーケティングやコンテンツを使ったマーケティング、ソーシャルメディアを使ったマーケティングなど実践的な手法を学習します。	2後	36		○			○					○
○			紙と印刷 1	紙の特性を理解し、印刷・加工との表現を組み合わせることによって、広がるデザインの可能性を学んでいきます。また、グループワークの中で柔軟な発想を身につけます。	2後	30		○			○					○
○			紙と印刷 2		3前	24		○			○					○
○			環境概論	都市、あるいは風景や空間における多くの関係性を整理し、様々な情報を相手に伝えるための総合的な知識を学びます。	3前	24		○			○					○
○			コピーライティング	広告制作に必要な基本的知識を、キャッチコピーとボディコピーを中心に講義します。また、ビジネス文章および一般の文書を書く上で必要な心得に配慮しながら指導します。	3前	24		○			○					○
○			ポートフォリオ	就職活動に向けて、ポートフォリオ作成のコツや注意点などを学びます。	3後	12		○			○					○
○			デザイン史	知識として最低限必要と思われるデザイン運動の歴史、その社会的背景や今日への影響といった事柄について、レジュメを用いながら解説を行なうとともに、スライドやビデオによってできるだけ多くの作品を見ながらその解釈を語ってゆきます。	3後・4前	60		○			○					○
○			デッサン 1	どんな形なのかということから始まり、構造、見えない裏の形、その対象物が空間にどう位置関係で存在するのかを考え、注意深く観察する力を養います。	1前	48		○			○					○
○			デッサン 2		1後	60		○			○					○
○			デザイン演習 1	ビジュアルによる情報伝達、立体制作による空間把握など、総合的なデザインの社会的意味・役割を理解し、学生各自の適正を認識することに主眼を置きます。	1前	48		○			○	△		○		
○			デザイン演習 2	デザインをプロジェクト形式で実施していきます。外部企業や自治体と協働し、場やことを作るプロジェクトを実施します。また、任意の都市を設定してのプロジェクトも行ないます。	1後	72		○			○	△		○		
○			色彩演習	基本的な配色構成と実践的な色体験を通して、色彩感覚を身につけることを目的とします。色彩調和をめざした平面構成を主にしながら色同士の影響も考慮して、配色する立体・空間（環境）のデザインに応用できる力を養います。	1後	48		○			○					○
○			ベーシック	パソコンを使用し、イラストレータやフォトショップなどソフトウェアの使用方法を学びます。基本的な操作（文字を打つ、レイアウトをする、画像を加工する）を覚え、道具として使いこなすことが出来るようになることが目標です。	1前	16		○			○					○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			画材研究	パステル、色鉛筆、透明水彩、アクリルの画材の基本的な使い方、及びそれぞれの画材が持っている表現の違いを、自ら描きながら体験、会得、研究し、今後自分の商業デザイン、イラストの世界におけるビジュアル制作の基礎を作ります。	1後	72			○		○				○	
○			イメージクリエイション 1	クリエイターとして豊かな想像力を養うために、作品制作を通して勉強します。	1後	72			○		○				○	
○			構成・色彩	イラストやグラフィックデザイン、環境造形に向けての基礎トレーニングとして、平面構成を行います。色彩と形態とのバランスを2次元(平面)の重要な構成要素として作品制作を通して勉強します。	1前	44			○		○					○
○			スケッチ 1	アナログで絵を描く力をつける授業です。打ち合わせ時などに、イメージを絵にして伝える事が出来る様にする事が目標です。	1前	44			○		○					○
○			スケッチ 2	立体の認識、質感、パース、人体、アングル、空間などを実習を通して学びます。	1後	72			○		○					○
○			Illustrator・Photoshop	グラフィックデザインに必要なソフトであるIllustratorとPhotoshopの基本操作を身に付けます。	1前	44			○		○			○		
○			3DCG/MAYA	3DCGの概念を理解し、モデリング、アニメーション、レンダリングの基礎の習得を目指します。	1前	44			○		○				○	
○			マーケティング・フィールドワーク	昨今の学生は、課題の対象を掴むことが苦手です。課題を前に考えめぐったり、ネットでとおり一週間の「資料」を集め、対象と向き合わないまま「課題をこなして」いたりします。この授業ではその原因を、基本的な体験不足(主に消費体験・現地体験)・インターネットで「対象を掴んだ」つもりになれる学習体験にあると仮定し、そこから脱却するトレーニングを行います。	1前	44			○		○	△				○
○			タイポグラフィ基礎	デザインにおける適切な書体の選定方法や、書体・組版の違いにおける印象の変化を実践的に学びます。授業成果として、課題のクライアントでもある「株式会社モリサワ」へ向けて、書体を用いた社用ノベルティの提案を行います。	1前	20			○		○					○
○			DTP演習	印刷物のデータ作成に必要なパソコンスキルを学びます。	1後	72			○		○					○
○			和文タイポグラフィ	日本語の活字組版の基本を実践と講義を通して指導します。また、日本語の表記と深く関わるという視点から、日本語への理解と確認を基に、漢字と仮名の特徴や活字書体の特徴と関連して指導します。	1後	72			○		○					○
○			デザインワーク	チーム制作をメインとし、実際のデザインの現場での流れを体感し、メジャーな飲料やお菓子の広告、ファッション系の広告を学ぶことでターゲットにあわせた幅広い広告制作を経験します。	2前	48			○		○					○
○			写真実習	デジタル一眼レフカメラを使っでの撮影の技法や、スタジオでのライティングの基礎などの写真に関わる知識を体感的に修得していきます。	2前	48			○		○					○
○			コンセプトワーク	自分なりの視点で新しい色を作成したり、漢字を考えたり等、様々な課題を通して物作りの考え方や表現の仕方を体現しながら学びます。	2前	48			○		○					○
○			ブランディング	「ブランディング」を通しデザイナーとして何が出来るのかを考え、デザイナーの役割と必要な素質を知っていただきます。その中で最も重要なものが「コミュニケーション力」です。可能な限り複数人での課題に取り組んでいただきます。複数の意見を聞くことで新たなモノの考え方や自分自身の固定概念からの脱却を図り、常に違った角度から物事を捉えられる授業です。	2前	48			○		○					○
○			レイアウト	エディトリアルデザイン的な狭義の「レイアウト」にとどまらず、イラスト制作や写真撮影、ポートフォリオの作成などに応用可能な「動所」、「作品化」の道筋、汎用性の高い「レイアウト感覚」、あるいはそこに至るまでの「考え方」などを体感的に身に付けることを目指します。	2前	48			○		○					○
○			ロゴタイプ・マーク	文字が判読性を保ち、意味を的確に伝えられるように、より個性的にデザインされた文字の表現法を学びます。	2前	24			○		○					○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			パッケージ	パッケージデザインの歴史と現状を知り、現行パッケージデザインの分析をすることで、今あるデザインに対する問題提起をしていきます。そのためにディスカッションや、リサーチ、実際に手を動かす制作作業などの体験を通して、パッケージデザインを身につけていきます。	2前	24		○			○			○	
○			Web・UIデザイン	Webデザインの基本的な考え方や、面白さを知り、PCやスマートフォンなどの各デバイスに対応したデザイン制作が出来るようになることを目指します。	2前	48		○			○			○	
○			欧文タイポグラフィ基礎	欧文書体の誤った使用に気付き、正確な組み方と使用法の基本を身に付けます。また、活字書体の分類と歴史を理解し、活字の活用法を自分で考えられるように指導します。	2前	48		○			○			○	
○			ディレクションワーク	個人、またはチームで興味を持ったテーマを調べ、それについてデザイナーとしてどう関わるかを考えていきます。	2後	36		○			○			○	
○			マーケティング	自分たちの手で情報収集を行い、それらを基にしてマーケティング戦略の立案を行います。	2後	36		○			○			○	
○			パンフレット	ターゲットとして設定された読者層に対して、伝えたい情報が的確に届くデザインのために必要な最低限の知識を、実習を通して習得します。	2後	36		○			○			○	
○			広告 1	広告の全体像を把握し、モノの見方や考え方を通して表現の幅を広げ、伝達することの理解を目指していきます。	2後	36		○			○			○	
○			商品企画 1	実際の企業に提案することを目的とし、商品化するアイテムのアイデアからカンパ作りまでを一貫して行います。	2後	72		○			○			○	
○			エディトリアル	全体を通して、「冊雑誌をつくります」。「束見本・表紙・中面数ページ」を必須とし、判型・ページ数・造本などは自由です。雑誌全体を考えること・ページデザイン（表紙やロゴ含む）をすることの両軸を核に進めていきます。	2後	36		○			○			○	
○			書籍	書籍の構造や仕組みを理解しながら、自分の手で一冊の書籍を作ります。作ることで難しさやおもしろさ、喜びを学んでいきます。紙選びも自分でいい、一冊の本をディレクションしていきます。	2後	36		○			○			○	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Web・UIコーディング	コーディングの基礎やコーディングを含めたWebデザインの楽しさを指導していきます。	2後	72			○		○				○
○			欧文タイポグラフィ初級	既習項目の欧文書体の歴史の視覚化を通して、応用実践を強化します。組版の様々な規則と書体の知識を得た上で、多彩でクリエイティブな組版の可能性を探ります。	2後	72			○		○				○
○			販売促進	プランニングからデザインまでを、実践と論理の双方から重層的に学習していきます。クライアントの希望するPRやプロモーションを考え、実際にクライアントに向けてプレゼンテーションを行います。	3前	48					○	○			○
○			サイン計画	ピクトグラムやサインが環境でどのように機能するのか実技を通して学びます。	3前	48					○	○			○
○			商品企画 2	商品のアイデア発想からはじまり、そのアイデアを商品化していく過程での、コンセプト、商品名、生産コスト、流通マーケティングまでを総合的にプロデュースできるよう学びます。	3前	48					○	○			○
○			タイポグラフィコンポジション	文字組を主体とした紙面設計を論理と実践の両面から学びます。また、コンピュータを使いながらも組版ソフトに頼らない、組版者自身で文字組—紙面設計—頁構成をコントロールするための、アナログ時代から変わらない普遍的な概念と実技の習得を目指します。	3前	48					○	○			○
○			Webデザイン 1	Photoshop, Illustratorを使用した画面デザインから基本的なHTML・CSS構造から特徴を理解し、ポートフォリオサイトの制作を行います。	3前	48					○	○			○
○			Web/UIアプリ企画制作 1	情報収集やマーケットリサーチを元に、新しいアプリケーションの企画・デザインを行い、すぐに実装できるような複数ページのアプリのデザインを制作・プレゼンテーションを行います。	3前	48					○	○			○
○			Web/UIアプリ企画制作 2		3後	72					○	○			○
○			プレゼンテーションワーク	学外企業との産学協同プロジェクトなどを実施しています。商品のマーケティングからネーミング、パッケージデザインなどをチームで取り組み、チームワークの取り組みの面白さを体験します。最終日には各チームでプレゼンテーションを行います。	3後	72					○	○			○
○			環境デザイン 1	サインデザインの実践、応用を行います。具体的な場所を設定し、動線計画から配置計画、グラフィックデザイン、テクニカルデザインについて学ぶほか、素材、取り付け方法といった分野まで理解の幅を広げてもらいます。	3後	72					○	○			○
○			広告 2	様々な媒体に展開される広告。制作を通して世の中における広告手法を学びます。	3後	36					○	○			○
○			広告 3	広告は人と人とのコミュニケーションデザインが不可欠。コミュニケーションデザインの考え方を学び、広告に落とし込んでいきます。	3後	36					○	○			○
○			タイポグラフィ/InDesign	書籍やパンフレットなどのページ物のデザインをするのに必要なInDesignのソフトのオペレーションを学びます。	3後	72					○	○			○
○			ブランディング 2	地域のブランディング、商品ブランディングの2課題を行う。地域ブランディングは、地域をリサーチし、発見したことをもとに、新たなコミュニケーションツールをブランディングする。商品ブランディングは、具体的なテーマが与えられ、商品や店舗などをブランディングしていく。	3後	72					○	○			○
○			Webデザイン 2	コーポレートサイト構築を通して実践的なweb制作を学びます。	3後	72					○	○			○
○			環境デザイン 2	サインデザインの実践、応用を行います。具体的な場所を設定し、動線計画から配置計画、グラフィックデザイン、テクニカルデザインについて学ぶほか、素材、取り付け方法といった分野まで理解の幅を広げてもらいます。	4前	48					○	○			○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必修	選択 必修	自由 選択						講義	演習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			ポスターディレクション	資生堂化粧品ポスターなどを制作し、その過程（モデル撮影など）を学んでいきます。最新のデザイナーの情報や展覧会、ビデオ鑑賞を取り入れた授業になります。	4前	48				○	○			○		
○			UXデザイン	デザインにおけるユーザー体験（UX）の諸原理を理解し、デザイン提案において利用できるようになることを目的とします。方法や手段より、背景となる思想や発想に重きを置き、現場において臨機応変に方法や手段を選び、実践できる力を身に付けます。	4前	48					○	○			○	
○			Webデザイン 3	CSSを中心としたコーディング、フラッシュを使用したモーションづくりなどを学びます。	4前	48					○	○			○	
○			雑誌企画編集	ワンテーマ雑誌の企画からスタートし、ページ校正、インタビュー・取材、本文の執筆までをグループで行います。独自性を持った企画・編集をめざし最終的に製本を行い、グループごとに発表をします。	4前	48					○	○			○	
○			広告 4	広告の企画・計画・制作・プレゼンテーションを行う中で、広告の全体像と流れを掴み、伝えるということに重点を置きます。また、企画・制作物のクオリティと表現スキルの向上を目指します。	4前	48					○	○			○	
○			ブックデザイン	書籍と雑誌の内容、役割の違いを把握しつつ、企画、編集も含め一冊の本を作ってもらいます。他者にどう伝えたいのか、どうしたら伝わりやすいのかを考え、冊子として形にしてもらいます。形を作るだけでなく、本の内容、目的を把握してデザインにおとし込むことを理解してもらい授業です。	4前	48					○	○			○	
○			卒業制作	各自がテーマを決め、4年間の集大成としてのデザイン、イラスト作品などを制作し、毎年2月に開催される、卒業制作展（東京都美術館）にて展示します。	4通	400					○	○			○	
○			体育祭	授業の一環として全学生参加と教職員の協力のもとに実施し、学生間の交流と親睦を深めることを目的とします。	1~4前	40					○		○	○		
○			東美祭	学生と教職員、卒業生を含めた交流、日常の学習成果と個性・感性を社会的に問う発表の場など、様々な交流が生まれ育つことを目的とします。	1~4後	280				○		○		○		
○			キャリアガイダンス	「人はなぜ働かなくてはいけないのか」という学生にとっての疑問から入り、自分自身の能力を自覚させ、本人の価値観に沿った職種に就けるように指導します。	3前	18					○		○		○	
○			就職ガイダンス	自分を振り返る機会を与え、社会人になる意識を高めていきます。そして本人の価値観に添った、本人の適正にあった仕事を得るためのビジョンを持たせます。	3後	24					○		○		○	
○			健康診断	学校教育法第12条および学校保健法第6条に基づいた健康診断を実施しています。	1~4前	8					○		○		○	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度コミュニケーションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			個人面接	個人の適性と卒業後の進路の相談に対応するため、全学年において行います。	1~4通	8		○			○		○		
○			オリエンテーション	学期の始めと終わりに、その後の授業予定の説明と確認のためのガイダンスです。	1~4通	40		○			○		○		
合計			74 科目			3,948 単位時間( — 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年次までの全ての必修科目の修得と、卒業制作の合格。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
東洋美術学校	昭和51年6月10日	中込 三郎	〒162-0067 東京都新宿区富久町2番6号 (電話) 03-3359-7421																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人中込学園	昭和50年6月10日	中込 三郎	〒162-0067 東京都新宿区富久町2番6号 (電話) 03-3359-7421																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
文化・教養	造形専門課程	クリエイティブデザイン科 高度グラフィックアート専攻	—	平成20年文部科学省 告示第15号																				
学科の目的	ポスター、雑誌、パッケージなどの紙媒体のデザイン、Webデザイン、またイラストレーションや、写真、立体アートなど新しいデザイン・アート表現をつくり出すクリエイターの育成。																							
認定年月日	平成26年3月31日																							
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																		
	3.918時間	216時間	2.024時間	40時間	0時間	1.636時間																		
4年	昼間	単位時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
	320人	236(111)人 ( )書きは専攻実員	1(0)人 ( )書きは専攻実員	8人	150人	158人																		
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～3月31日 ■3学期:—		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 作品内容・試験結果及び出席状況・学習態度等を総合して評価																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月15日～1月7日 ■春季:3月10日～4月10日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	全ての科目で「可」以上の成績を取得し、かつ、卒業制作にて「合格」を認められること																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール・SNS等での定期的な連絡による情報把握。場合によっては保護者面談、家庭訪問も行う。		課外活動	■課外活動の種類 デザインによるボランティア活動や、描画・プログラミングの部活等 ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) デザイン会社、印刷会社、携帯ショップ、クリエイター・エージェンシー、フリーマーケットの運営団体、ゲーム会社(デベロッパー)、製造会社 ■就職指導内容 就職ガイダンスを通して、自己分析から始まり、応募書類の書き方(履歴書やエントリーシートなど)、ポートフォリオ制作のアドバイス、求人情報の集め方、模擬面接、模擬試験(一般常識・SPI)等を行っています。		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																				
	■卒業者数: 19人 ■就職希望者数: 19人 ■就職者数: 13人 ■就職率: 68.4% ■卒業者に占める就職者の割合: 68.4% ■その他 ・進学者数: 0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 色彩検定の資格取得講座を開講しておりますが、卒業年度生の受験者はおりませんでした。</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数														
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中退率 7.1% 平成28年4月1日時点において、在学者98名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者91名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 保護者の経済面における問題、健康面・精神面における障害や進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的に行う担任・副担任による個人面談、TO-BI相談室利用の促進、保護者を含めた三者面談等。 ※TO-BI相談室では、週二回臨床心理士による予約制の無料相談を行っています。																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 高等学校の成績を判定基準とした特待生入学制度有り。年間10万円～42万円 授業料等減免。 (https://www.to-bi.ac.jp/entrance/scholarship/) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																							
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.to-bi.ac.jp/course/cdg/">https://www.to-bi.ac.jp/course/cdg/</a>																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校・高等専門学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。 )との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。 )における企業等との連携に関する基本方針

ITの革新的な技術によりデザインとテクノロジーを統合するコンテンツ業界において、サービスや商品のマーケティング、イラストの制作、プロダクトの開発まで、様々なメディア、モノ、表現を効果的に活用し、提案ができるクリエイターの育成が望まれています。4年間のカリキュラムは、表現する上で必要なコミュニケーション能力、マーケティングセンス、発想力、構成・色彩・デッサン力、そしてプレゼンテーションスキルを養う多くの授業と指導が組み込まれています。そして、個別に学んだ事を知識として応用できるようにする為に、産学連携授業を位置付け、一人ひとりの実践力につなげています。株式会社モリサワとの産学連携授業では、タイポグラフィをテーマとし、具体的な書体を用いた社用ノベルティの提案を、学生から企業へプレゼンテーションし、成果を上げていきます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は、カリキュラムの設計から講師の人選まで管理する、デザイン研究室と直結しています。委員会の存在により学校長と研究室間の迅速な情報共有と意思決定が行えるようになっていきます。プロジェクトマネジメントは産学連携事務局とキャリア支援部が協力して行います。委員会でまとまった意見は、3段階の方式で実装をしていきます。先ず直ぐにできることは、委員会後1ヶ月以内に実行のための検討を進め、直ぐにはできないが検討の後、実行可能なことは次年度までに実行に向けての計画を策定します。そして、検討後3年以内に実行できないと学校長が判断した意見は、その後の会議で再度議題として委員会メンバーに打診話し合います。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中込 三郎	学校法人 中込学園 東洋美術学校 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
中込 大介	学校法人 中込学園 東洋美術学校 副校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
岡田 好市	学校法人 中込学園 東洋美術学校 教頭	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
高木 能得	学校法人 中込学園 東洋美術学校 デザイン研究室 室長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
石川 義宗	学校法人 中込学園 東洋美術学校 デザイン研究室 主事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
並木 幸久	文理シナジー学会 理事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	②
藤崎 研一朗	株式会社メルカリ プロデューサー	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
皆瀬 十三夫	東京特殊電線株式会社 研究開発部 課長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年9月9日 10:30～12:00  
第2回 平成29年2月24日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会は、各学科が企業と予め目標と定めた成果を目指しているかを定期的に確認していきます。教育目標として生徒にとって意義があったとしても、企業側は得るべき成果を得られているか、プロジェクトに費やす時間は長過ぎないかといった具体的な内容についても学科担任職員を通じてフィードバックを行い、当該年度の最終会議で再度検討し、改善事項は翌年度カリキュラムへと反映させていきます。今年度、クリエイティブデザイン科においては、フィールドワークやマーケティングリサーチといった、情報インプット主体の授業や、産学連携課題も企業オリエンテーションから開始することにより、前提の理解から目的の設定、企画、制作、提案と、デザインにかかわる一連のスキームを経験できるカリキュラムへと変更されました。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。 )の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

生活者視点から考えたデザインとは、見た目の心地よさ、機能性、そしてライフスタイルを向上させる物語を含む事が生まれ、その中でも売れる商品だけが市場で評価されていきます。その視点を個人の生徒が知識として習得するには商品と顧客をもつ企業との連携が不可欠です。また、企業にとっても多くの生活者視点を持つ学生との関わりはマーケティングノウハウの構築のみならず、新たな発想、デザイナーを取り込む仕組み・リソースとして活用できます。この2つの需要を合致させる事で双方にメリットのあるデザイン教育の連携を実現しています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

カリキュラムで重視するファウンデーション期間において、企業連携によるタイポグラフィの授業を実施することにより、デザインにおける適切な書体の選定について、初期段階での習得を目指します。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
タイポグラフィ基礎	デザインにおける適切な書体の選定方法や、書体・組版の違いにおける印象の変化を実践的に学ぶこと。授業成果として、課題のクライアントでもある「株式会社モリサワ」へ向けて、書体を用いた社用ノベルティの提案を行うこと。	株式会社モリサワ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係											
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針											
事前打ち合わせ、中間発表、最終プレゼンテーション時に、マーケティング、広告戦略、及びデザインについて直接指導を受けます。「コンテンツ東京2017 ライセンシングジャパン」にて開催する有識者セミナーへの参加を通じてイラストやデザイン、ゲームなど知的財産の活用における人材のあり方について学びます。また、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修として、産学企業の製品・サービスの市場性を研究し、日頃より生徒に対して現場レベルの指導をする為に各学科会議にて報告をします。											
(2)研修等の実績											
①専攻分野における実務に関する研修等											
・国際総合知財ホールディングス社による研修・セミナー 「内容：著作権管理、アートマネージャー育成、開催時期：2017年5月10日」											
②指導力の修得・向上のための研修等											
・学校リスクマネジメント協会が推進する研修・セミナー 「内容：クレームリスク、不祥事防止研修等、開催時期：2017年11月16日」											
(3)研修等の計画											
①専攻分野における実務に関する研修等											
・国際総合知財ホールディングス社による研修・セミナー 「内容：著作権管理・アートマネージャー育成、開催時期：2018年5月」											
②指導力の修得・向上のための研修等											
・学校リスクマネジメント協会が推進する研修・セミナー 「内容：クレームリスク、不祥事防止研修等、開催時期：2018年11月」											
・ゲーム会社のクリエイティブディレクターによるハンズオンセミナー 「内容：ゲーム業界を志望する生徒が増加する中、在校生に現場のノウハウを伝える為に企画するセミナー」 2018年4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月											
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係											
(1)学校関係者評価の基本方針											
視野の広いアーティスト・デザイナーの育成を目的とし、心・技・感性のバランスのとれた人材を育成すると同時に、アナログとデジタル双方をバランスよくとらえることが出来、情報化社会において、クリエイティブの在り方について考え、社会に求められる職業教育を行い、インターンシップとカリキュラムの関係をより効果的にするプログラム作成を重点的な目標とし、学外の意見を取り入れた計画を、単年度だけでなく、中長期にわたり計画策定する。											
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>	(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul>	(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>	(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目										
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>										
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul>										
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>										
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>										

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校の教育活動は、学内にとどまらず、社会的活動も含まれる。さらに、意見は、授業内容の改善、そして、社会的活動としては、美術学校独特の活動し、地域等に於ける、無料公開講座、聾唖学校の生徒達の指導として海外美術体験を提供し、国際交流等を図り、学校運営においては、学校体制や人事の円滑化を具体的に活かしていく予定。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 強	浦和麗明高等学校 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	高等学校 校長
杉崎 厚子	有限会社エスプランニング 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	専門分野 企業等委員
中村 真太郎	税理士法人 長坂会計事務所	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	財務等 専門家
石井 聡	ファイナンシャルプランナー	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	財務等 専門家

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://www.to-bi.ac.jp/pdf/h28\\_self\\_evaluation.pdf](https://www.to-bi.ac.jp/pdf/h28_self_evaluation.pdf)

平成29年7月27日に、平成28年度 項目別・自己評価表をWEB公開した。

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の情報提供は、多岐にわたる為に、教育部分と運営部分とに大きく2つに分け、教育部分は、入学・在学・卒業に分け、運営部分は、経営及び校務に分けて情報提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育、人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色</li> <li>・校長名</li> <li>・学校の所在地、連絡先</li> <li>・学校の沿革、歴史</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学に関する受入れ方針</li> <li>・入学者 収容定員</li> <li>・カリキュラム、時間割</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等</li> <li>・卒業後の進路</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の組織、教員の専門性</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取組状況</li> <li>・企業等との連携による具体的な取組</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況</li> <li>・社会貢献活動</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> <li>※逆浸透膜浄水器、TO-BI相談室の設置</li> </ul>

(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金 金額</li> <li>・活用できる経済的支援措置等の内容等</li> <li>・学生納付金 納入時期</li> </ul>
(8) 学校の財務	・財務諸表
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	・外国の学校等との交流状況
(11) その他	
<p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3) 情報提供方法 上記項目(1)～(10)はWEBで公開している。</p>	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度グラフィックアート専攻) 平成29年度																		
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任				
○			クリエイティブ概論	クリエイティブデザイン科に関係のある各専門分野の講師による講義です。グラフィックデザイン・パッケージ・イラストレーション・3DCG等についての仕事内容を学びます。	1前	24		○			○			○				
○			キャリアセミナー	就職する業界の知識を身につけ、今後の進路について考えます。	1後	10		○			○				○			
○			プロフェッショナルセミナー	デザイン関連の仕事に携わるプロをゲストに招き、各業界の仕事内容について講義してもらいます。1年後に始まる就職活動に向けて早い時期からデザイン現場の状況を知り、学生自身の進路の指針にすることが目的です。	2後	10		○			○					○		
○			言語表現論	句読点の打ち方から簡単な企画書の作成まで、自分の伝えたいことを読み手に分かりやすく伝えるための基本的な技術を学びます。また、就職活動対策のために自己PR文・志望動機・メール文章の書き方についても指導します。	2後	30		○			○					○		
○			ポートフォリオ	就職活動に向けて、ポートフォリオ作成のコツや注意点などを学びます。	3後	12		○			○					○		
○			デッサン 1	どんな形なのかということから始まり、構造、見えない裏の形、その対象物が空間にどう位置関係で存在するのかを考え、注意深く観察する力を養います。	1前	48			○		○					○		
○			デッサン 2		1後	60			○		○						○	
○			デザイン演習 1	ビジュアルによる情報伝達、立体制作による空間把握など、総合的なデザインの社会的意味・役割を理解し、学生各自の適正を認識することに主眼を置きます。	1前	48			○		○	△		○				
○			色彩演習	基本的な配色構成と実践的な色体験を通して、色彩感覚を身につけることを目的とします。色彩調和をめざした平面構成を主にしながら色同士の影響も考慮して、配色する立体・空間（環境）のデザインに応用できる力を養います。	1後	48			○		○						○	
○			ベーシック	パソコンを使用し、イラストレータやフォトショップなどソフトウェアの使用方法を学びます。基本的な操作（文字を打つ、レイアウトをする、画像を加工する）を覚え、道具として使いこなすことが出来るようになることが目標です。	1前	16			○		○			○				
○			3DCG/MAYA 1	3DCGの概念を理解し、モデリング、アニメーション、レンダリングの基礎の習得を目指します。授業で習っていない項目についても自分でリサーチし、独習できるように指導します。3DCG静止画作品制作、ゲーム用データ制作も行います。	1前	44			○		○						○	
○			3DCG/MAYA 2		1後	72			○		○							○
○			Illustrator・Photoshop	グラフィックデザインに必要なソフトであるIllustratorとPhotoshopの基本操作を身に付けます。	1前	44			○		○			○				

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度グラフィックアート専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デジタルイラスト	基礎的な画力やCG技法を身につけつつ、「自分は何の業界で働きたいか」という指針を固めて貰います。一番コンパクトな自己アピール方法である名刺を作成します。仕様する描画ソフトはフォトショップの他、イラストレーターも必要となります。	1前	44		○			○			○	
○			風景描画 1	背景や風景にはパースがあり、それらを上手く描くことで空間が生まれます。この授業では、パースの勉強をし、2Dイラストの確かな実力をつけるとともに、3Dでの空間把握能力など総合的な力を伸ばすことを目的としています。	1前	44		○			○				○
○			風景描画 2		1後	72		○			○				○
○			人体イラスト 1	人体の全身および各部位の理解を深めるための講義や理解を広げるためのデッサン、クロッキー実習を行います。また、理解を確かめるためのイラスト制作実習を行い、着実に力をつけれるよう指導します。	1前	44		○			○				○
○			人体イラスト 2		1後	72		○			○				○
○			画材研究	パステル、色鉛筆、透明水彩、アクリルの画材の基本的な使い方、及びそれぞれの画材が持っている表現の違いを、自ら描きながら体験・会得・研究し、今後自分の商業デザイン、イラストの世界におけるビジュアル制作の基礎を作ります。	1後	72		○			○				○
○			After Effects 1	動画の編集や効果をつけるために使用するソフトであるAdobe After Effectsの修得を目指す授業です。絵コンテの描き方や実際の撮影作業なども行い、実践形式で学んでいきます。	1後	72		○			○				○
○			Photoshop/UIデザイン	PhotoshopとIllustratorの基本的な使い方を身につけつつ、主にゲーム作りに必要な効果の見せ方、付け方などを中心に進めます	1後	72		○			○				○
○			タイポグラフィ基礎	デザインにおける適切な書体の選定方法や、書体・組版の違いにおける印象の変化を実践的に学びます。授業成果として、課題のクライアントでもある「株式会社モリサワ」へ向けて、書体を用いた社用ノベルティの提案を行います。	1前	20		○			○				○
○			写真実習	デジタル一眼レフカメラを使っでの撮影の技法や、スタジオでのライティングの基礎などの写真に関わる知識を体感的に修得していきます。	2前	48		○			○				○
○			3DCG/MAYA 3	3DCGの概念を理解し、モデリング、アニメーション、レンダリングの基礎の習得を目指します。授業で習っていない項目についても自分でリサーチし、独習できるレベルに達することが出来るよう指導します。 3DCG静止画作品制作、ゲーム用データ制作に加え、アニメーションの作品制作も行います。	2前	48		○			○				○
○			3DCG/MAYA 4		2後	144		○			○				○
○			After Effects 2	1で学んだ基礎を基に、現場で通用する力をつけれるよう指導します。MAYAで制作したものを動かし	2前	48		○			○				○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度グラフィックアート専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			After Effects 3	たり、効果をつけるなど、同時並行的に行っていきます。	2後	72		○			○			○		
○			イラスト講座	ラフや線画の描き方、パーツや衣装の描き方などを学びながら、全体の絵の見せ方を学びます。業務についてのエピソードや、直近のお仕事などについても解説します イラスト制作の課題を出し、レタッチによる修正や向上を含めた講評を実施します。	2前	60				○	○				○	
○			映画分析	映画を鑑賞し、ライティングや構成、ストーリーなどの分析を行います。クリエイターとしてのものを見る目を養い、今後の制作に活かして行くことが狙いです。	2前	48				○		○				○
○			UIデザイン	ゲームで使用するカードとUIデザインを作ります。Photoshopの特性を生かし、Illustratorもうまく取り入れつつ、ジャンル、テーマに沿ったフォント選びやデザイン作りができるよう勧めます。	2前	48				○		○				○
○			3DCG/MAYA・Zbrush 1	ZBrushについての理解・使い方を習得し、ZBrushの実用的な使い方の習得・作品制作を行います。別のアプリケーション（Photoshopなど）の学習状況にもよりますが、可能ならUNITYについても触れていきます。	2前	48				○		○				○
○			3DCG/MAYA・Zbrush 2		2後	72				○		○				○
○			CGディレクション 1	自分の目指す業界や会社の具体化を行いながら、そのために何を制作したいのか、どういった作品を3年生のうちに作るべきなのかを将来から逆算した発想で課題（3DCG/映像制作）に取り組みます。	2後	72				○		○				○
○			構成デッサン	モチーフの観察に基づいた表現による画面構成を重視したデッサン実習を行います。	2後	72				○		○				○
○			線画デザイン	様々なキャラクターの描き方について学び、オリジナルキャラクターを作ります。他の学生の作品に投票する機会を設け、どんなキャラクターが人気が出るのかを体感的に学びます。	2後	72				○		○				○
○			キャラクターデザイン	仕事を意識したキャラクターデザインの授業。講師側がクライアントとなり、生徒には依頼をするような形で授業をすすめます。最終的には生徒にプレゼンテーションをしてもらい、大勢の前で発言する力も鍛えます。	2後	52				○		○				○
○			プロジェクトワーク 1	いろいろな会社の制作進行を学びながら、グループワークでプロジェクトを進行していきます。プランナー（企画）、キャラクターデザイン、CGモデリング、CGアニメーション、映像編集など、各パートに分かれて制作を進めます。	3前 4前	96				○	○					○
○			プロジェクトワーク 2		3後	72				○	○					○

## 授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度グラフィックアート専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			2Dデザイン 1	ゲーム業界に就職するにあたって必要な心構えからはじまり、モンスターデザインや武器のデザインを通してゲームの業界で必要とされる「デザイン」の考え方を実践的に学びます。	3前 4前	96			○	○				○		
○			2Dデザイン 2		3後	72			○	○					○	
○			モデリング 1	2年次の知識とスキルを活かして、作品を作ることを目的とした3Dアプリケーションの操作実習を行います。2年次までのような操作練習よりも、より作品を作ることを優先した講義になります。作品の完成を目的として、効率化やクオリティアップを図る操作も同時に学びます。	3前 4前	96			○	○				○		
○			モデリング 2		3後	72			○	○					○	
○			アニメーション 1	バウジングボールやビルジャンプ、振り子などの簡単なアニメーション操作から始まり、キャラクターの3DCGアニメーションのつけ方を学びます。「らしさ」と、心地よいアニメーションの動きを追求し、作品を制作していきます。	3前 4前	96			○	○				○		
○			アニメーション 2		3後	72			○	○					○	
○			映像・VFX 1	実際に現場で映像撮影時に使用するグリーンバックや合成を行うための素材作りの撮影を体験し、その素材を元にエフェクトなどの加工方法を学んでいきます。実践的な経験を積み、就職活動に活かします。	3前 4前	96			○	○				○		
○			映像・VFX 2		3後	72			○	○					○	
○			CG制作 1	各授業での課題の制作時間として、自習のための時間を設けます。講師も在中し、各個人の進路相談や課題の進捗管理などを行います。集中して制作できる環境を用意し、クリエイター育成に力を注ぎます。	3前 4前	96			○	○				○		
○			CG制作 2		3前 4前	96			○	○					○	
○			CG制作 3		3後	72			○	○					○	
○			CG制作 4		3後	72			○	○					○	
○			卒業制作	各自がテーマを決め、4年間の集大成としてのデザイン、イラスト作品などを制作し、毎年2月に開催される、卒業制作展（東京都美術館）にて展示します。	4通	400			○	○				○		

## 授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度グラフィックアート専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			体育祭	授業の一環として全学生参加と教職員の協力のもとに実施し、学生間の交流と親睦を深めることを目的とします。	1~4前	40			○		○	○			
○			東美祭	学生と教職員、卒業生を含めた交流、日常の学習成果と個性・感性を社会的に問う発表の場など、様々な交流が生まれ育つことを目的とします。	1~4後	280		○			○	○			
○			キャリアガイダンス	「人はなぜ働かなくてはいけないのか」という学生にとっての疑問から入り、自分自身の能力を自覚させ、本人の価値観に沿った職種に就けるように指導します。	3前	24	○				○		○		
○			就職ガイダンス	自分を振り返る機会を与え、社会人になる意識を高めて行きます。そして本人の価値観に添った、本人の適正にあった仕事を得るためのビジョンを持たせます。	3後・4前	58	○				○		○		
○			健康診断	学校教育法第12条および学校保健法第6条に基づいた健康診断を実施しています。	1~4前	8		○			○		○		
○			個人面接	個人の適性と卒業後の進路の相談に対応するため、全学年において行います。	1~4通	8	○				○		○		
○			オリエンテーション	学期の始めと終わりに、その後の授業予定の説明と確認のためのガイダンスです。	1~4通	40	○				○		○		
合計						58 科目					3,916 単位時間( — 単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年次までの全ての必修科目の修得と、卒業制作の合格。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
東洋美術学校	昭和51年6月10日	中込 三郎	〒162-0067 東京都新宿区富久町2番6号 (電話) 03-3359-7421																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人中込学園	昭和50年6月10日	中込 三郎	〒162-0067 東京都新宿区富久町2番6号 (電話) 03-3359-7421																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	造形専門課程	クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻	—	平成20年文部科学省 告示第15号																						
学科の目的	デザインや図面、モデリング(模型制作)、CAD(コンピュータ支援による設計)、さらには人間工学やマーケティング、 GUI(グラフィカルユーザインターフェース)まで学び、よりレベルの高いプロダクト・インダストリアルデザイナーの育成。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	3,894時間	646時間	2,368時間	40時間	0時間	840時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
320人	236(24)人 ( )書きは専攻実員	1(0)人 ( )書きは専攻実員	8人	150人	158人																					
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～3月31日 ■3学期:—		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 作品内容・試験結果及び出席状況・学習態度等を 総合して評価																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月15日～1月7日 ■春季:3月10日～4月10日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件		全ての科目で「可」以上の成績を取得し、かつ、卒業制作に て「合格」を認められること																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール・SNS等での定期的な連絡による情報把握。場合 によっては保護者面談、家庭訪問も行う。		課外活動		■課外活動の種類 デザインによるボランティア活動や、描画・プログラミングの部活等  ■サークル活動: 有																					
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 時計ショップ、木工家具製造会社、玩具メーカー  ■就職指導内容 就職ガイダンスを通して、自己分析から始まり、応募書類の書き方(履歴 書やエントリーシートなど)、ポートフォリオ制作のアドバイス、求人情報の 集め方、模擬面接、模擬試験(一般常識・SPI)等を行っています。 ■卒業生数 : 3 人 ■就職希望者数 : 3 人 ■就職者数 : 2 人 ■就職率 : 66.6 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 66.6 % ■その他 ・進学者数: 0人  (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄  色彩検定の資格取得講座を開講しておりますが、 卒業年度生の受験者はおりませんでした。		資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 9.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者21名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者19名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 保護者の経済面における問題、健康面・精神面における障害や進路変更等  ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的に行う担任・副担任による個人面談、TO-BI相談室利用の促進、保護者を含めた三者面談等。 ※TO-BI相談室では、週二回 臨床心理士による予約制の無料相談を行っています。																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 高等学校の成績を判定基準とした特待生入学制度有り。年間10万円～42万円 授業料等減免。 (https://www.to-bi.ac.jp/entrance/scholarship/) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://www.to-bi.ac.jp/course/cdp/">https://www.to-bi.ac.jp/course/cdp/</a>																									

(留意事項)

- 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください
- 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進  
3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ITの革新的な技術によりデザインとテクノロジーを統合するコンテンツ業界において、サービスや商品のマーケティング、イラストの制作、プロダクトの開発まで、様々なメディア、モノ、表現を効果的に活用し、提案ができるクリエイターの育成が望まれています。4年間のカリキュラムは、表現する上で必要なコミュニケーション能力、マーケティングセンス、発想力、構成・色彩・デッサン力、そしてプレゼンテーションスキルを養う多くの授業と指導が組み込まれています。そして、個別に学んだ事を知識として応用できるようにする為に、産学連携授業を位置付け、一人ひとりの実践力につなげています。株式会社モリサワとの産学連携授業では、タイポグラフィをテーマとし、具体的な書体を用いた社用ノベルティの提案を、学生から企業へプレゼンテーションし、成果を上げていきます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は、カリキュラムの設計から講師の人選まで管理する、デザイン研究室と直結しています。委員会の存在により学校長と研究室間の迅速な情報共有と意思決定が行えるようになっていきます。プロジェクトマネジメントは産学連携事務局とキャリア支援部が協力して行います。委員会でまとまった意見は、3段階の方式で実装をしていきます。先ず直ぐにできることは、委員会後1ヶ月以内に実行のための検討を進め、直ぐにはできないが検討の後、実行可能なことは次年度までに実行に向けての計画を策定します。そして、検討後3年以内に実行できないと学校長が判断した意見は、その後の会議で再度議題として委員会メンバーに打診話し合います。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中込 三郎	学校法人 中込学園 東洋美術学校 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
中込 大介	学校法人 中込学園 東洋美術学校 副校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
岡田 好市	学校法人 中込学園 東洋美術学校 教頭	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
高木 能得	学校法人 中込学園 東洋美術学校 デザイン研究室 室長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
石川 義宗	学校法人 中込学園 東洋美術学校 デザイン研究室 主事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
並木 幸久	文理シナジー学会 理事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	②
藤崎 研一朗	株式会社メルカリ プロデューサー	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
皆瀬 十三夫	東京特殊電線株式会社 研究開発部 課長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年9月9日 10:30～12:00  
第2回 平成29年2月24日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会は、各学科が企業と予め目標と定めた成果を目指しているかを定期的に確認していきます。教育目標として生徒にとって意義があったとしても、企業側は得るべき成果を得られているか、プロジェクトに費やす時間は長過ぎないかといった具体的な内容についても学科担任職員を通じてフィードバックを行い、当該年度の最終会議で再度検討し、改善事項は翌年度カリキュラムへと反映させていきます。今年度、クリエイティブデザイン科においては、フィールドワークやマーケティングリサーチといった、情報インプット主体の授業や、産学連携課題も企業オリエンテーションから開始することにより、前提の理解から目的の設定、企画、制作、提案と、デザインにかかわる一連のスキームを経験できるカリキュラムへと変更されました。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

生活者視点から考えたデザインとは、見た目の心地よさ、機能性、そしてライフスタイルを向上させる物語を含む事が生まれ、その中でも売れる商品だけが市場で評価されていきます。その視点を個人の生徒が知識として習得するには商品と顧客をもつ企業との連携が不可欠です。また、企業にとっても多くの生活者視点を持つ学生との関わりはマーケティングノウハウの構築のみならず、新たな発想、デザイナーを取り込む仕組み・リソースとして活用できます。この2つの需要を合致させる事で双方にメリットのあるデザイン教育の連携を実現しています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

カリキュラムで重視するファウンデーション期間において、企業連携によるタイポグラフィの授業を実施することにより、デザインにおける適切な書体の選定について、初期段階での習得を目指します。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
タイポグラフィ基礎	デザインにおける適切な書体の選定方法や、書体・組版の違いにおける印象の変化を実践的に学ぶこと。授業成果として、課題のクライアントでもある「株式会社モリサワ」へ向けて、書体を用いた社用ノベルティの提案を行うこと。	株式会社モリサワ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係											
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針											
事前打ち合わせ、中間発表、最終プレゼンテーション時に、マーケティング、広告戦略、及びデザインについて直接指導を受けます。「コンテンツ東京2017 ライセンシングジャパン」にて開催する有識者セミナーへの参加を通じてイラストやデザイン、ゲームなど知的財産の活用における人材のあり方について学びます。また、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修として、産学企業の製品・サービスの市場性を研究し、日頃より生徒に対して現場レベルの指導をする為に各学科会議にて報告をします。											
(2)研修等の実績											
①専攻分野における実務に関する研修等											
・国際総合知財ホールディングス社による研修・セミナー 「内容：著作権管理、アートマネージャー育成、開催時期：2017年5月10日」											
②指導力の修得・向上のための研修等											
・学校リスクマネジメント協会が推進する研修・セミナー 「内容：クレームリスク、不祥事防止研修等、開催時期：2017年11月16日」											
(3)研修等の計画											
①専攻分野における実務に関する研修等											
・国際総合知財ホールディングス社による研修・セミナー 「内容：著作権管理・アートマネージャー育成、開催時期：2018年5月」											
②指導力の修得・向上のための研修等											
・学校リスクマネジメント協会が推進する研修・セミナー 「内容：クレームリスク、不祥事防止研修等、開催時期：2018年11月」											
・ゲーム会社のクリエイティブディレクターによるハンズオンセミナー 「内容：ゲーム業界を志望する生徒が増加する中、在校生に現場のノウハウを伝える為に企画するセミナー」 2018年4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月											
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係											
(1)学校関係者評価の基本方針											
視野の広いアーティスト・デザイナーの育成を目的とし、心・技・感性のバランスのとれた人材を育成すると同時に、アナログとデジタル双方をバランスよくとらえることが出来、情報化社会において、クリエイティブの在り方について考え、社会に求められる職業教育を行い、インターンシップとカリキュラムの関係をより効果的にするプログラム作成を重点的な目標とし、学外の意見を取り入れた計画を、単年度だけでなく、中長期にわたり計画策定する。											
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>就職率の向上が図られているか</li> <li>資格取得率の向上が図られているか</li> <li>退学率の低減が図られているか</li> <li>卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>	(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul>	(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>	(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職率の向上が図られているか</li> <li>資格取得率の向上が図られているか</li> <li>退学率の低減が図られているか</li> <li>卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目										
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>										
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> </ul>										
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>										
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職率の向上が図られているか</li> <li>資格取得率の向上が図られているか</li> <li>退学率の低減が図られているか</li> <li>卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>										

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校の教育活動は、学内にとどまらず、社会的活動も含まれる。さらに、意見は、授業内容の改善、そして、社会的活動としては、美術学校独特の活動し、地域等に於ける、無料公開講座、聾唖学校の生徒達の指導として海外美術体験を提供し、国際交流等を図り、学校運営においては、学校体制や人事の円滑化を具体的に活かしていく予定。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 強	浦和麗明高等学校 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	高等学校 校長
杉崎 厚子	有限会社エスプランニング 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	専門分野 企業等委員
中村 真太郎	税理士法人 長坂会計事務所	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	財務等 専門家
石井 聡	ファイナンシャルプランナー	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	財務等 専門家

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://www.to-bi.ac.jp/pdf/h28\\_self\\_evaluation.pdf](https://www.to-bi.ac.jp/pdf/h28_self_evaluation.pdf)

平成29年7月27日に、平成28年度 項目別・自己評価表をWEB公開した。

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の情報提供は、多岐にわたる為に、教育部分と運営部分とに大きく2つに分け、教育部分は、入学・在学・卒業に分け、運営部分は、経営及び校務に分けて情報提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育、人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色</li> <li>・校長名</li> <li>・学校の所在地、連絡先</li> <li>・学校の沿革、歴史</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学に関する受入れ方針</li> <li>・入学者 収容定員</li> <li>・カリキュラム、時間割</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等</li> <li>・卒業後の進路</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の組織、教員の専門性</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取組状況</li> <li>・企業等との連携による具体的な取組</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況</li> <li>・社会貢献活動</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> <li>※逆浸透膜浄水器、TO-BI相談室の設置</li> </ul>

(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金 金額</li> <li>・活用できる経済的支援措置等の内容等</li> <li>・学生納付金 納入時期</li> </ul>
(8) 学校の財務	・財務諸表
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	・外国の学校等との交流状況
(11) その他	
<p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3) 情報提供方法 上記項目(1)～(10)はWEBで公開している。</p>	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プロダクトデザイン論	工業製品と工芸品の違い、製造方法、それらの産業としての姿を歴史的に学びます。また、それを作り出すデザイナーと職人の仕事の内容、役割、意識について考えます。	1前	48		○			○			○	
○			デザイン史 1	近・現代のデザインの歴史を概観します。デザインだけでなく、社会的背景や今日への影響について考え、その解釈を試み、デザインへの視野を広げます。	2前	24		○			○			○	
○			デザイン史 2		2後	32		○			○			○	
○			認知工学	デザインを知覚の観点から学びます。条件反射といった人の直感的な動作に注目し、より使いやすいデザインを目指します。最終的には製品（飲料水のパッケージなど）を提案します。	2前	44		○			○			○	
○			材料学 1	車両や電化製品をデザインするうえで不可欠な金属の特性、製品例について学習します。特にデザインに役立つ加工方法（鋳造、表面処理など）を重点的に習得します。	3前	24		○			○			○	
○			材料学 2	車両や電化製品をデザインするうえで不可欠な金属の特性、製品例について学習します。特にデザインに役立つ加工方法（鋳造、表面処理など）を重点的に習得します。	3後	34		○			○			○	
○			産業財産権/意匠登録	デザイン業務に不可欠な知的財産権の基礎知識として、意匠法の概要、意匠登録出願の方法、商標法の概要、商標調査、著作権の概要、実用新案権の概要などについて学習します。	3後	52		○			○			○	
○			工業技術概論	車両や家電などの駆動部分に注目し、その機構の基本を理解します。また、二足歩行型ロボットから先端技術の発展と課題を見据え、今後のデザインの可能性を考えます。	3後	28		○			○			○	
○			製品色彩学	製品の色彩計画として、着色した素材の成形方法、塗装による表面処理といった技術を学びます。また、トレンドカラーのようなマーケティングとしての色彩にも目を向けます。	4前	48		○			○			○	
○			製品開発論	デザインを商品として実現するための技術、コスト、部品調達の仕組みについて学びます。開発の流れからデザインを理解することで、アイデアを的確に評価する能力を習得します。	4前	48		○			○			○	
○			工業デザインマネジメント	日本のメーカーが製造技術の発展をデザインに活かしてきたことに注目し、企業内デザイナーが工業と意匠の両立をいかに考えてきたのか学習します。	4後	60		○			○			○	
○			色彩学 1	立体デザインにおける色彩の影響とその効果を学習します。これにより、製品の用途、形態、対象年齢などに応じた、適切な配色を行う能力を身につけます。	4前	24		○			○			○	
○			色彩学 2		4後	34		○			○			○	
○			タイポグラフィ基礎	デザインにおける適切な書体の選定方法や、書体・組版の違いにおける印象の変化を実践的に学びます。授業成果として、課題のクライアントでもある「株式会社モリサワ」へ向けて、書体を用いた社用ノベルティの提案を行います。	1前	20			○		○			○	○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎造形	発泡スチロールやプラスチックといった素材を使い、タブレット端末のような工業製品の模型を作る能力を身につけます。また、感覚的に作るのではなく、図面から模型を作ったり、模型を修正して図面を直したりし、数値的な正確さへの注意力を育てます。	1前	56		○			○			○	
○			基礎製図 1	主に三角法や三面図を指導しますが、図面からペーパーモデルを製作したり、既製品を計測して図面化したりするなど、図面から立体をイメージする能力も育てます。	1前	48		○			○				○
○			基礎製図 2		1後	64		○			○				
○			Illustrator / Photoshop 1	デザイン業務の基本ソフト、Illustrator、Photoshopの操作を学びます。学生は名刺や作品集を制作しつつ、印刷の知識やレイアウトの基本も身につけます。また、図面をIllustratorで描いたり、画像をPhotoshopで合成したりして、クラフトデザイン・工業デザインに特化した使い方も指導します。	1前	48		○			○				
○			Illustrator / Photoshop 2		1後	64		○			○				
○			実材実習 1	木工、金工、ガラス、磁器といった素材を使用してペーパーカッターなどの身近な製品を作ります。素材の特性を理解しつつ、ものづくりの楽しさを体験しながら計画的に作業します。	1前	48		○			○				○
○			実材実習 2		1後	64		○			○				○
○			造形演習 1	厚手の紙を用いて造形する力をのばします。大きさ、強度、重さなど、様々な条件に応じて簡潔な造形を行い、できあがった作品をモチーフとしてデッサンを描きます。	1前	48		○			○				○
○			造形演習 2		1後	64		○			○				○
○			スケッチ 1	製品の完成予想図を素早く描く技術を学びます。また、スケッチによってアイデアを生み出す思考方法を鍛えます。細部の仕組みや機構なども考え、工業製品としての情報量を備えたスケッチを目指します。	1前	48		○			○				○
○			スケッチ 2		1後	64		○			○				○
○			デッサン	立方体や円柱、球といった基本形態を正確に写し取ることを学びます。また、木材、ガラス、石といった質感を描写し、その特徴を理解します。	1前	44		○			○			○	
○			人間工学演習	人体寸法からデザインを考え、数値化、定量化、標準化の重要性を学びます。また、実際にメーカーを訪問して製品に触れ、人間工学の成果を体験できるようにします。	1前	48		○			○				○
○			スケッチ・サポート	上達の度合いに応じてアドバイスを受け、スケッチの学習が円滑に進むようにします。	1前	28		○			○			○	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インダストリアル・クレイ	主に自動車のデザインで行われている粘土造形を学びます。図面通りに大型模型を作るだけでなく、優れた造形感覚の習得も目指します。	1後	64			○		○				○
○			実材演習 3	シリコンや石膏による型を作り、金属やガラス、磁器などの小中量生産を行います。量産に向けたデザインについて学び、その設計から製作までを行います。	2前	48			○		○				○
○			実材演習 4		2後	64			○		○				○
○			SolidWorks 1	広く普及しているSolidWorksを使用し、3D CADによるモデリングの概念と操作の習得します。	2前	48			○		○				○
○			SolidWorks 2	モチーフとして様々な日用品のモデリングを行い、製品への知識も養います。	2後	64			○		○				○
○			産学協同	企業との連携により、量産型の家具のデザインを行います。実践的な内容にするため、授業形態は課題解決型になっており、課題の設定、スケッチ、プレゼンテーションまでを行い、学生のアイデアの商品化を目指します。	2後	28			○		○		○	○	
○			レンダリング 1	図面や模型との関係のなかで適切な描画表現ができるようにします。そのため、製品の一部分が透けて内部機構を表現するような、高度なレンダリングを学びます。	2前	48			○		○				○
○			レンダリング 2		2後	64			○		○				○
○			デザイン技術演習	日本の中小企業や町工場に注目し、独自の技術についてリサーチする。これにより、眠っている技術をどのようにデザインによって製品にすることができるか考える。	2後	64			○		○				○
○			撮影技術	作品ファイルを制作するための写真撮影の技術を学びます。校内スタジオにおける撮影だけでなく、屋外の撮影技術やパソコンによる仕上処理も習得します。	2後	64			○		○				○
○			ストーリーテリング演習	製品をデザインする際、美しさや構造ではなく、製品にまつわる具体的な体験談やエピソードをを考えます。これにより、生活者にとって魅力あるデザインを目指します。	3後	60			○		○				○
○			出展制作 1	2k540 (ジェイアール東日本都市開発が秋葉原で運営する商業施設)で出店を行うため、予算などをふまえて企画を立て、秋葉原にちなんだ製品の販売を行います。そのために、ふだん学んでいるものづくりの知識を活かしつつ、秋葉原の伝統や現在をリサーチし、地域とデザインの間を考えます。学外でのフィールドワークを盛んに行うため、グループワークのなかでも際立った取り組みになっています。	3前	48			○		○				○
○			出展制作 2		3後	48			○		○				○
○			実材演習 5	磁器のシュガーボットに木製のフタをつけるといった異素材の組み合わせに焦点をあててデザイン、製作します。これにより、素材の特性を活かした発想力と、様々な工芸技術を横断的に考える能力をはぐくみます。	3前	48			○		○				○
○			実材演習 6		3後	64			○		○				○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			公共機器	駅の券売機といった多くの人が使う公共機器のデザインに注目します。そのため、人間工学だけでなく都市計画といったマクロな視点を導入し、デザインを学びます。	3後	60		○			○			○		
○			トータルデザイン	iPhoneとiPhoneケースとアプリのように関係性の高いもののデザインを複合的にを行います。ユーザーの豊かな体験を創造することに重きがあり、グラフィックやインターフェースについても学びます。	3前	44			○			○			○	
○			デザイン演習 1	地場産業に注目し、日本の伝統工芸などを調べ、新たな製品の提案を行います。また、実際に職人に製作を依頼するため、そのための書類づくり、図面づくりや予算の検討といったことを含んでおり、実践的にデザインを学びます。	3前	48			○			○			○	
○			デザイン演習 2		3後	56			○			○			○	
○			照明機器	LEDの普及によって照明器具の設計が変化しているが、白熱電球との光の違いをふまえたデザインを行う。器具としての機能性だけでなく、光と暮らしの豊かな関係を考える。	4前	44			○			○			○	
○			デザインリサーチ演習	日本経済新聞を用いて最新のものづくりを学ぶとともに、1ヶ月分の新聞誌面を一覧したり、記事を切り貼りしたりするという行為を通じて、インターネットとは異なったりサーチの仕方を学ぶ。	4前	44			○			○			○	
○			ユニバーサルデザイン	日常の道具に注目し、年齢、性別、個人の能力にかかわらず、多くの人が円滑に使えるデザインを考えます。道具を通じて、高齢者が社会参加を継続するための方法を考えます。	4前	44			○			○			○	
○			デザイン演習 3	地場産業に注目し、日本の伝統工芸などを調べ、新たな製品の提案を行います。また、実際に職人に製作を依頼するため、予算などの考え方も実践的に学びます。	4前	48			○			○			○	
○			実材演習 7	これまで学んだ技術を活かし、量産性と独創性を兼ね備えた製品をデザインし、実際に製作、検証します。手の込んだ加工を取り入れつつ、それを量産しうる加工プロセスを考えることで、これまでの量産品では見られないような魅力あるデザインを提案します。	4前	48			○			○			○	
○			実材演習 8		4後	64			○			○			○	
○			Industrial Design 1	製品の調査と分析を主に行い、課題の発見などから新しいアイデアの創出を図ります。また、気になるプロダクトデザインの写真を毎週発表し、普段からデザインに関心を持するようにします。	2前	44					○	○			○	
○			Industrial Design 2	デザインへの理解を深めるため、製品を機能や造形から考えず、「はかる」や「素」といった根本的なキーワードに還元し、プロダクトデザインの可能性を追求します。	2後	64					○	○			○	
○			Industrial Design 3	近未来的なテクノロジーに注目し、先進的なプロダクトデザインを行います。豊かな未来を創造するとともに、科学の発展がもたらす問題についても考えます。	3後	64					○	○			○	
○			Industrial Design 4	近年の生活の変化に着目したプロダクトデザインを行います。例えば、シェアオフィスの普及などに取り組み、働き方の変化を考えたプロダクトデザインを考えます。	4前	44					○	○			○	
○			Craft Design 1	ペーパーナイフやスプーンのような小型の作品製作を通じて木工に特化した基礎的な知識と技術の習得を行います。	1後	64					○	○			○	

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			Craft Design 2	木製の腰掛や本棚などを設計、製作し、仕口や継手といった伝統的な木工技術を学びます。	2前	96			○	○				○		
○			Craft Design 3		2前	64			○	○					○	
○			Craft Design 4	職人の指導のもと、木製の椅子を設計、製作し、生活空間における椅子の役割、人間工学的な配慮、無垢木材の特性を学習します。	3後	64			○	○					○	
○			Craft Design 5		4前	48			○	○						○
○			卒業制作	各自のテーマにもとづいて、リサーチ、企画書の作成、作品の制作を行います。数回の批評会では様々な製品分野の講師が集まり、進捗を確認したり、質疑応答を行ったりします。これにより、企画の実現性、社会性を多面的に検証します。結果的に、高齢化や自然保護といった社会的な課題に配慮した提案が多く、その堅実なデザインは本科の教育の特色になっています。	4後	64			○	○						○
○			卒業制作リサーチ	あらかじめ決めたテーマと計画にしたがい、夏休み中にリサーチを行います。文献調査やフィールドワークを集中的に実施し、9月以降の実技科目「卒業制作」が円滑に進むようにします。	4前	160			○			○				○
○			卒業制作 批評会	卒業制作の進捗についてプレゼンテーションを行います。企業でのプレゼンテーションを想定し、訴求力の高い説明や図式などを作成します。質疑応答への対応なども学びます。	4前・4後	40			○			○	○	○		
○			卒業制作 展覧会作業	卒業制作を東京都美術館（上野）で展示します。作品の設営・撤去作業、受付・作品の解説などの運営も行います。	4後	24			○			○	○			
○			体育祭	授業の一環として全学生参加と教職員の協力のもとに実施し、学生間の交流と親睦を深めることを目的とします。	1/4前	40			○			○	○			
○			東美祭	学生と教職員、卒業生を含めた交流、日常の学習成果と個性・感性を社会的に問う発表の場など、様々な交流が生まれ育つことを目的とします。	1/4後	280			○			○		○		
○			キャリアガイダンス	「人はなぜ働かなくてはいけないのか」という学生にとっての疑問から入り、自分自身の能力を自覚させ、本人の価値観に沿った職種に就けるように指導します。	3通	24			○			○				○
○			就職ガイダンス	エントリーシートや履歴書の書き方、面接の受け方など就職活動のやり方と、社会へ出る前と出た後に必要となる基本的マナーと一般常識を指導します。	3後4前	58			○			○				○

授業科目等の概要

(造形専門課程クリエイティブデザイン科 高度プロダクトデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			健康診断	学校教育法第12条および学校保健法第6条に基づいた健康診断を実施しています。	1 5 4 前	8			○		○			○	
○			個人面接	学生は担任と就学状況や就職希望について定期的に話し合います。これにより、担任は学生に合った指導方法を検討したり、就職担当の職員と連携して的確な就職支援を行ったりします。	1 5 4 通	8			○		○			○	
○			オリエンテーション	学期の最初に年間の予定を把握し、各授業の内容や就職活動までの流れを想定します。これにより、計画的な就学の実現と学習意欲の向上をはかります。	1 5 4 通	40			○		○			○	
○			新入生研修	デッサンやスケッチを通じて工業製品と工芸品の造形について洞察し、その違いや美しさを理解します。	1 前	16			○		○			○	
			○ 英会話 1	高校までに学習した基本的な文法で十分な情報と信頼を得るための会話法を学びます。そのため、適切なマナー、表情、身振りなどを総合的に習得します。	1 前	24			○		○				○
			○ 英会話 2		1 後	32	34		○		○				○
			○ 英会話 3	英語によるディスカッションの技術を学び、英語による論理的な話法、思考方法に慣れることを目指します。デザインに限らず話題が設定されており、社会への広い視野を育みます。	2 前	24			○		○				○
			○ 英会話 4		2 後	34			○		○				○
			○ Rhinoceros	Rhinocerosを使ってCADの基本的な概念と操作を習得します。また、IllustratorやPhotoshopといったソフトと連携し、データコンバートによる実践的な使い方を学びます。	2 前	24			○		○			○	
			○ 英会話 6	英語によるプレゼンテーションを中心に学びます。説明を分かりやすくするための論理性だけでなく、心に響くような比喩表現などを考え、豊かな自己表現の意識を育てます。	3 前	24			○		○				○
			○ 英会話 7	自己主張や他者への説明だけではなく、相互理解を目的にした建設的な会話を練習します。これにより、意見形成をつかさどるリーダーシップも学びます。	3 後	34			○		○				○
合計						74 科目					3,894 単位時間 ( — 単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年次までの全ての必修科目の修得と、卒業制作の合格。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。